日刊 動労千葉

87. 3. 7

No. 2495

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

役員活動家の職場からの排除＝配転攻撃を断じて許さず

清算事業団の仲間を奪いかえすぞ

支部代―この一カ月全力で闘いぬこう

動労千葉は、三月五日、第七回支部代表者会議を開催し、3・10「人活」廃止をテコとして役員・活動家を職場から排除しようとする不当な配転攻撃に対し断あらゆる闘いをもって反撃にたつ。そして、あらゆる意味で「四月以降」をきめる三月―この一カ月を精一杯たたかいぬく当面する取り組みについて意志統一をはかった。

―役員・活動家を職場から排除―

不当な差別・選別の配転

三月十日「人活」廃止を前にして国鉄当局は、組合所属による露骨なまでの差別・選別を行い、役員・活動家の職場から排除を目的とした強制配転攻撃にうってでてきている。

中曽根・国鉄当局、革マル松崎が一体となり動労千葉、国労破壊のために二月十六日差別・選別、レッドパージは強行されたが、動労内に大きな矛盾を抱えこみ重大な危機に立たされている革マル・松崎をそれだけでは救済できない。

「人活」より復帰する役員・活動家を元の職場に戻すことは鉄道労連の危機を増幅するものだ。だからこそ、革マル松崎・志摩らは「三月配属で区別せよ」と国労・動労千葉を排除し、二万労働者の首切りを国鉄当局に哀願するに至った。

それを受けた当局は、人活から「元の職場へ戻さない」「分散させる」さらに、職場から「役員・活動家を排除する」＝強制配転攻撃をもって革マル松崎を救済せんとする暴挙を「3・10配属」より早めて、全国的にかけてきている。

―「四月以降」をきめる三月―

三月＝どう闘うのか

三月はあらゆる意味で「四月以降」をきめる一カ月としてある。組合員の先頭にたって職場を守りぬき、解雇された28名、パージされた十二名の仲間をはじめとして流した血と汗を本当に結実させなければならない。

労働者の首を切られることを喜ぶ労働組合のもとで労働者の権利・生活が守れるか。瀬島竜三の「国鉄改革は失敗」に示されるように新会社の前途は暗たんたるものだ。鉄道労連の「笑顔で競い合う」など大ペテンだ。労働者の犠牲のうえに生きのころうとする輩と対決し、闘う労働組合、労働運動が本当に求められている。

三月をどう闘うのか、方針は鮮明だ。鉄道労連解体・一掃、動労千葉・動労総連合の強化・拡大、組織強化の闘いのうえに差別・選別の配転攻撃を許さず、粉砕へ全力で闘いぬこう。

さらに、「中江昌夫トップ当選」を目指し、中江選挙闘争の取り組みの強化をはかる。

当面する主な取り組み

3/8 動労水戸臨時大会
10 市川福平総決起集会 県教育会館 18時
12 船橋映画集会 船橋商工会議所 18時
13 成田映画集会 成田国際文化会館 18時
サークル協・ボーリング大会 マサヒボール 9時30分
16 退職者激励会 ステーションビル 13時
25 第15回定期委員会 教育会館 10時
29 3・29三里塚現地集会

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！